

(様式6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2874900265		
法人名	社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団		
事業所名	高齢者グループホームわらしべ		
所在地	兵庫県朝来市和田山町竹田1957-1 (電話)079-670-6677		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】 (19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	38078		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	12 人	常勤12人, 非常勤	人, 常勤換算1.35人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000 円		その他の経費（月額）	25,000 円	
敷 金	有（ 円）		無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無		有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	6	要介護2	2		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84.7 歳	最低 76.5 歳	最高 94.11 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立豊岡病院組合立和田山病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったりと開放的なホーム内では、ユニット間での入居者同士の交流が自然に行われ、職員のさりげない見守りができるよう共用スペース内での事務所等の配置に工夫が伺われる。また職員は個々の入居者のプライバシーにも配慮し、家具やソファや椅子の設置場所に気を配り、一人や数人で過ごせるスペースを確保するよう取り組んでいる。職員は常に入居者を尊び、寄り添うケア、傾聴の姿勢を徹底している。入居者には自然な笑顔や生き生きとした表情の変化も見られ、入居者一人ひとりが感情表現しやすい雰囲気作りを大切に支援している。今後は運営推進会議の定期的な開催や高齢者施設合同連絡会等を通じて地域との連携を深め、ともに支え、支えられる関係の継続を期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 評価結果は改善の為に具体案を会議で検討しホームのサービスの質の向上に繋げており、家族への報告も実施している。介護計画の作成においてアセスメントやモニタリングのプロセスを見直し利用者本位の計画になるよう改善し実践している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 自己評価は職員一人ひとりが評価実施の意義を理解し、職員全体で評価項目に関わり、話し合いを重ね取り組んでいった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4,5,6) 現在までに運営推進会議の開催はないが、管理者・職員は会議の目的を理解し開催に向けての働きかけを行っている。市の担当職員等との連携が保たれ、随時質問や相談する機会があり問題解決に向けての協力関係を築いている。市との協力のもとにグループホーム連絡会の設置について検討を重ねている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7,8) 入居者の日常の様子や健康状態、受診状況等を担当職員が毎月報告するよう取り組み、金銭の管理状況、職員の異動も同時に報告している。家族面会時に担当職員が相談や意見を聞くよう努めている。家族間での交流が図れるようホーム行事への参加を呼びかけている。家族からの意見や苦情に対応する為に苦情相談委員会を設け第三者委員の意見も聞く体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) ホーム周辺には住宅も少なく近隣の住民との交流が難しい状況ではあるが、地域の秋祭り等各種行事や小学校の運動会への参加、自治会活動である清掃活動に協力する等、可能な限り交流が持てるよう取り組んでいる。入居者の状態に配慮しつつホーム内行事へ近隣住民を招待するなどの試みを検討している。

2. 第三者評価結果票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの人格・人権を尊重・尊厳したサービスの実践に取り組む法人理念に則ってホーム独自の理念を作り上げている。今年度の事業計画の中で地域密着型サービスとしての役割を踏まえた目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念や方針について冊子にまとめ職員に配布し、一人ひとりが日常的に理念を意識したケアの実践を目指している。朝礼や職員会議等にて職員間で話し合う機会を持ち理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺には住宅も少なく近隣の住民との交流が難しい状況ではあるが、地域の秋祭り等各種行事や小学校の運動会への参加、自治会活動である清掃活動に協力する等可能な限り交流が持てるよう取り組んでいる。	○	入居者の状態に配慮しつつ、ホーム内行事へ近隣住民を招待する等の試みを検討している。運営推進会議の定期的な開催や高齢者施設合同連絡会等を通じて自治体や地域住民との関わりを継続していく事を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は改善の為の具体案を会議で検討しホームのサービスの質の向上に繋げており、家族への報告も行っている。自己評価は職員一人ひとりが評価の実施の意義を理解し、職員全体で評価項目に関わり、話し合いを重ね取り組んでいった。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに運営推進会議の開催はないが、管理者・職員は会議の目的を理解し開催に向けての働きかけを行っている。	○	地域との連携に努め地域に開かれたホームである為に、運営推進会議の定期的な開催が望まれる。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人は自治体との関わりが多い中、ホームとしても市の担当職員等との連携が保たれ、随時質問や相談する機会があり問題解決に向けた協力関係を築いている。市との協力のもとでグループホーム連絡会の設置について検討を重ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常の様子や健康状態・受診状況等を担当職員が毎月報告するよう取り組んでおり、金銭の管理状況・職員の異動についても同時に報告している。家族面会時に担当職員が相談や意見を聞くよう努め、家族間での交流も図れるようホーム行事への参加を呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部からの意見や苦情に対応する為に苦情相談委員会を設け第三者委員の意見も聞く体制を整えている。毎月の家族への報告書を送付し、家族から率直な意見を聞けるよう配慮している。家族が話しやすい環境を整える為に相談室の確保等を検討している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、入居者への影響を考え最小限になるよう配慮している。職員交替による入居者へのダメージを少なくする為に職員間でのフォローアップ体制を整え、家族への報告も随時行っている。担当制を導入し引継ぎが確実にできるよう配慮している。		
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外にかかわらず開催される研修は職員のキャリアに応じて積極的に参加出来るよう情報提供しているが研修計画は策定されていない。研修受講後は報告書を作成し職員間での情報共有ができるよう取り組んでいる。	○	ホーム内研修は、職員の意向を取り入れ効率よく実施する為に研修計画を策定する事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、市内に設置された高齢者施設合同連絡会を通じて他施設との交流を継続している。自治体が中心になって来年度に向けたネットワーク作りを検討中で、グループホーム連絡会の実現を目指している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者に関しては担当のケアマネージャーを通じて本人の今までの生活環境や状況を確認し、本人の視点に立った支援ができるよう取り組んでいる。本人・家族との話し合いやホーム見学を通じて一人ひとりの思いを把握し、納得の上で安心してサービスを利用できるよう働きかけている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し、入居者と過ごす時間の中で介護する側として一方的な関係にならないよう配慮している。家族の中で入居者の生活歴や趣味・得意だった事を把握し、食事の味付け・おやつ作り・漬物のつけ方教えてもらう等、学び支えあう場面が見られる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族が安心して話せるよう雰囲気作りに配慮し、傾聴の姿勢を基本に一人ひとりを理解し意向の把握に努めている。日々の暮らしの中で本人への寄り添うケアを大切に、意見表示の困難な人には家族の協力とともに表情やしぐさにより本人の思いを確認している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の今までの生活環境や心身の状態を把握し作成したフェイスシート等をもとにアセスメントを行い、本人のニーズにそった介護計画になるよう職員間で検討している。作成された介護計画は家族に説明し同意を得ている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員・計画作成担当者が中心となり職員間で話し合いモニタリングし、本人や家族の意見が反映された見直しを行っている。定期的な見直しとしては6ヶ月に1回実施し、状態変化に応じた見直しも随時行っている。	○	介護計画にそったケアが実施されているか、新たなニーズが生じていないか等に迅速に対応していく為に1ヶ月に1回程度の計画の見直しが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族が安心して暮らしていける為に、要望や意向にそった柔軟な対応を心掛けている。現在のホームの現状を考慮し認知症対応のショートステイ・デイサービス・医療連携体制加算の支援は行っていないが、入居者が、かかりつけ医へ受診する場合で、家族の要望があれば職員が付き添うよう配慮し、特別な外出や外泊についてはその都度可能な限り個別支援を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の意向に沿った受診ができるよう体制を整えている。受診時に担当医や家族と受診状況を情報共有し、伝達事項等は記録に残し、関係機関との連携が図られるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応は法人内の特別養護老人ホームや協力医療機関との連携の中で家族の意向にそえるよう取り組んでいる。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者・家族には、入所時に個人情報の取り扱い・秘密保持等について文書で説明し同意を得ており、職員は入職時に事業所と契約を交わし徹底していくよう努めている。入居者一人ひとりを尊重し、個々の状況・個性に合わせた言葉掛けや対応をする中で誇りやプライバシーを損ねる事のないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体となるスケジュールはなく、入居者一人ひとりの思いに沿った生活ができるよう配慮している。食事時間での個々のペース・入浴時間・レクリエーションへの参加等は本人の希望やペースを尊重した支援を行っている。共有空間では入居者が思い思いに過ごせるスペースが確保できるよう配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れた献立に沿って食材の買物・調理・配膳・後片付け等を職員の支援を受けながら入居者も行っている。入居者の個々の力量や関心にそって声かけや対応を工夫し、職員も一緒に食事時間を楽しんでいる。献立には季節が感じられる食材等を取り入れ、入居者全員が食べ終わるまで職員もなだけ席を立たず、ゆったりと食べれる雰囲気大切にしている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前の心身の状態を確認し、入居者の希望があれば毎日入浴できるよう支援しているが、体調不良等で入浴できない人に対しては衣類の交換、清拭等取り入れている。入浴拒否傾向のある人へは言葉掛けや対応の工夫で気分転換を図り無理強いすることのないよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で園芸・習字・絵画・塗り絵等アクティビティの提供や食事作り・居室掃除・洗濯物干し等家事での役割分担への支援があるが、入居者の生活歴や得意だった事を把握し、一人ひとりが自然な形で力を発揮し、張りのある時間が過ごせるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通じてドライブ・地域行事への参加・買物等の機会を設けると共に、日常では入居者の個々の希望に応じて散歩や外出等個別に対応し入居者の気持ちの安定や五感への刺激となっている。ADLの低下がある入居者へは、外気に触れ気持ちの安定を図るために車椅子等を利用し戸外に出れるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室のベランダは日中は施錠せず、入居者の自由な暮らしが継続できるよう支援している。職員の見守り体制を整え、近隣の住民や周辺施設等の協力による入居者の安全面への配慮がある。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に1回、消防訓練を実施し、器材の点検も定期的に行っている。地域の福祉施設とともに防災連絡協議会の設置があり、災害時に向けた協力体制が整っている。法人内に災害に備えた備蓄があり非常時に活用できる準備がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調や好みに配慮した柔軟な支援が可能で、きざみ食やミキサー食等の対応ができています。個々の食事摂取量の確認を行い、個人記録に残し健康管理の参考としている。水分摂取については管理の必要性のある人は記録に残し、確実な摂取ができるよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外観は和風の趣を大切にホーム内も木目を生かして、落ち着いてゆったり過ごせる設えとなっている。共有部分はテーブルやこたつ・ソファ等で思い思いに過ごせる場所を工夫しており、高い吹き抜けは開放感があり、自然な採光を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本はベットを設置した居室となっているが、畳の利用も可能である。テレビや馴染みのある物品等を持ち込み落ち着けるスペースとなっている。居室から自由に出入りできるベランダは広く、洗濯物干しやプランターで花を育てる、歩行訓練をする等、入居者の個々の希望に応じた活用となっている。		

 は、重点項目。